

第46回安曇野市都市計画審議会 会議概要

- 1 会議名 第46回安曇野市都市計画審議会
- 2 日時 令和3年2月16日 午後2時00分から午後3時57分まで
- 3 会場 安曇野市役所 3階 議会全員協議会室
- 4 出席者 柳澤吉保会長、浅川隆委員、降旗幸子委員、丸山康富委員、
岡江正委員、峯村幸男委員、山根宏文委員、笠井明委員、
松枝功委員、一志信一郎委員、宮下明博委員、
坂田浩一委員代理：金子裕建設課長、飯森正敏委員
- 5 市側出席者 都市建設部 坪田部長、都市計画課 横山課長、山田係長、
中山主査、竹村主任
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴人 0人 記者 0人
- 8 会議概要作成年月日 令和3年2月24日

協議事項等

1 会議の概要

- (1) 開会
- (2) 部長あいさつ
- (3) 委員紹介
- (4) 会長互選
- (5) 会長あいさつ
- (6) 職務代理指名
- (7) 意見聴取
 - [1] 安曇野市都市計画マスタープラン〔改定版〕(案)について
 - [2] 安曇野市道路整備推進計画〔改定版〕(案)について
- (8) その他
- (9) 閉会

2 意見聴取

- [1] 安曇野市都市計画マスタープラン〔改定版〕(案)について

【説明に対する意見】

- 皆さんからいただいた意見に基づいて、都市計画マスタープランをブラッシュアップされているかと思う。また、意見に対する回答も明確にされていて、ご苦労されているのではないかなと思う。本日ご意見があれば出していただいて、最終は2月19日までだが、今日のうちに、何か具体的な修正等があればご意見をいただきたいと思う。
マスタープランと土地利用基本計画と道路整備推進計画が三つ巴になっていて、なかなか複雑ではあるが、いかがか。
前回お示ししたところからご意見をいただいて、かなり手を入れていただいてわかりやすくなっていると思う。20年を目途にということで10年前に作られた

ものだが、それに対して、都市計画の基礎調査、住民アンケートに基づいて作り込みをされているところである。

ちなみに事務局からこの点は大きく変わった、こういう書き込みにした、というところがあれば、ご紹介いただきたい。

→ まず 3-8、9 にある産業系の関係で、新たな事業用地の確保誘導に対する考え方を新たに追記している。

既存の産業団地や工場の周辺で産業用地を確保していくという10年前のマスタープラン及び土地利用の考え方で進んできたが、適地がないということで、新たな事業所を確保する場合には、基準に則って進めていく、ということ新たに盛り込んである。また、10年前のマスタープランのときには、まだ都市計画区域が統合されていなかったもので、今回は統合された中での記載をしている。

あとは会長さんのご挨拶にもあったとおり、松本糸魚川連絡道路のルート帯が決まったことで、その幅が狭くなり、より詳細なことが記載できたところが主な変更点である。

○ 大きくは雇用を生み出すこと。そのためのツールとして、松本糸魚川連絡道路が明らかになってきたので、そこの作り込みがある。

今、非常に雇用を生み出すというのは、多くの市にとっては大きな取り組みになるかと思うが、その点を書き込んでいただいたということである。

○ 3-9 ページの新たな事業用地の確保、誘導に対する市の考え方の中で、ゾーニングにいち早く取り組んでいかなければいけないことが課題だと思っているが、「将来的には」の表記については、いつ頃までのどういう考え方なのか分からない。私としては、このゾーンを検討していくというのは将来ではなくて、今すぐやり出さなければまずいのではないかと、という気がする。

それというのは地権者がまとまっていて、市としても景観にも害がないようなところを、地権者と話をしながら、なるべく早くゾーニングをする必要があると思うので、この「将来的」という書き方はちょっとどうかと思うが、いかがか。

→ 委員さんのおっしゃるとおりで、本当は行政としてこの部分を事業用地としてやっていくのだというのを示していくのが一番良いと思う。

ただ、市の工業振興ビジョンがあり、こちらが工業に特化した計画になっているが、内容が示されていない部分がある。

松本糸魚川連絡道路の路線や出入口が決まってくると、その出入口付近についても、開発圧力が高まることが考えられる。

ただ松本糸魚川連絡道路が実際にできるのはまだ先の話の中で、道路整備の進捗状況を見ながら、出入口付近の土地利用を地域の皆さんの意見を聞きながら考えていかなければいけないと思う。従って、今の状況ではルート帯が決まったが、どのようなまちづくりを進めるか、というところまで進んでいないので「将来」という言葉をつけさせていただいているが、その周辺の土地利用を考えていく必要があるという意味合いでの記載である。

○ こういうのはタイミングというものがあって、今安曇野市は非常に人気があり、安曇野市へ進出したい企業は本当に増えている。その意向がしっかり汲めるように良い体制は早く作っていかないといけないと思うので、「将来的」というよりは、もう少し積極的に進めていくような考え方が良いと思う。

○ 先ほど事務局からお話があった工業振興ビジョンとの関連が大きいのか。工業振興ビジョンでしっかりと決めていないと、マスタープランに含められないということなのか。

→ 都市計画マスタープランはどちらかというと土地利用全般のことになるので、工業だけに特化した記載はもちろんできないということもあり、あくまで工業振興ビジョンの中で記載しているものを具現化するためにマスタープランに盛り込むというのが自然な流れかと思う。今の工業振興ビジョンの中で具体的な場所は

もちろん示されていないし、どの程度必要だということも記載されていない状況の中で、具体的な記載ができないという部分はある。

- 委員さんが今言われるとおり、市として総合的にこの場所がいいというゾーニングは早めにやったほうがいいという話も一理あるかと思う。

例えば、我々から工業用地がどれだけ必要なのか、というフレームは作れるかと思う。以前ですと、マスタープランの中に人口が増加して行って、市街地も膨らんでいくような状況の中では、人口だけではなく、工業、商業のフレームを使って、それで適切な場所に必要な量の工業地と商業地を当てはめていったかと思うが、人口減少の中で縮小していかなければいけないということで、なかなかそれが触れられているものがない。今の時代のマスタープランは、その部分が抜けている状況である。

その辺り、安曇野市としては実際に必要な工業の面積はどのぐらいなのかを手始めとしてやっていくことはできるのか。

- 工業系の将来推計自体はできる。色んな推計方法があるが、工業系が新たにどのくらい必要かという推計も出してはいる。ただそれが独り歩きしてはいけない。

マスタープランでは、既存の産業団地もしくは工業団地の周辺に立地していくことが基本である。ここは新たな事業所ということで、産業集積地などから離れたところで立地する場合には、この指針に則ってお願いするということである。

- 今、委員さんのほうから出していただいたゾーニングを早めにというところであるが、いかがか。

- これは10年間の計画なので、10年後に見直しがある。松本糸魚川連絡道路の進捗も見ながら見直しをすることになると思う。

周辺のまちづくりが決まったら、エリアとして位置付ける。それが地域の皆さんの声でもあるので、工業系に必ずなるとは申し上げられないが、工業地として適地になるのであれば、そのようにマスタープランに位置づけていくことになると思う。

今現在では、エリアを位置づけることができないということである。

- 一応受け入れるところはあるということ。新たな場所をゾーニングすることについては、もう少し様子を見ていかないと難しいところがあるので、この辺りは工業振興ビジョンと合わせて、やりとりをしながら進めていただくということ。

それから松糸道路はどのくらいでより具体化してくものなのか。この辺りは人の流れが非常に大きな影響を与えると思うので、そのあたりの見通しができないと、事務局としては難しいと思う。

- 松糸の話が出てきたので、ちょっと今の状況を申し上げる。8月にルート帯ということで、道路は2車線、片側1車線ずつ、約10mしかない道路だが、それを50mぐらいの幅でお示しして、ルート帯というものは決定している。

これを実際に道路にするための設計をしていく測量に入っており、具体的な道路の位置をできるだけ早いうちに決めたいと思っている。あれだけ大きい道路なので、当然、都市計画決定をした中で、事業を進めていくことになる。

お金でいえば、約300億の事業費になる。一概には言えないが、一つの例で言えば国交省がやった国道19号の塩尻拡幅においても、20年はかかっているということである。単位とすれば5年、10年、20年というところでできあがったり、進んだりというような形になっていくと思うので、確かに委員さんが言われるように、早め早めというのはわかるが、残念ながら、松糸の進捗が遅いので、そこまで踏み込むのは、市としてもまだ苦しいのかと思う。

今はあんまりタイミングも良くないと思う。多分5年経っていれば、状況は相当変わっている。具体的に事業の着手をしている段階にもっていきたいと考えているので、10年と言っているが、5年ぐらいしたところで、進捗状況を見て、具体的に何かないとなかなか考えるのは難しいところがあるので、その辺が目途に

なるのかなという気はしている。

- このところの書き込みだが、誘致にあたっては、「既存の」について、先ほど事務局からご説明いただいた。すでに産業団地、工業団地があるところは、そこに誘致はできるということで、そういう読み方でよろしいか。
また松本糸魚川連絡道路の将来的な整備がより具体化されてきたところで、改めてゾーニングを検討していくという書き方はできるのか。
- 3-9 ページの上の指針に新たな事業用地の確保、誘導に対する市の考え方の2段落目をご覧いただきたい。2段落目の「また松本糸魚川連絡道路のルート帯決定に伴い、産業振興の観点からこの整備効果を活かした都市づくりを考える」ところだが、関連する道路の具体的な進捗については、まだ時間を要するところである。
ゾーニングをしたいが、時間がまだかかり、ここでは場所が決められないので、これをふまえて新たな事業用地の確保と書いたところである。
ゾーンが決まれば、そのゾーンを位置付けて終わりということになると思うが、今は場所を決められないので、その新たな事業用地に対する考え方をここに記したということである。
逆に松本糸魚川連絡道路の関連で、もし工業用地としてゾーニングができれば、この部分は削除してもよいと思う。この場所に工場を誘致していく、という市のスタンスが示されれば、この記載はなくなると考えているが、それをまだ示すことができないので、このような記載の方法をさせていただいている状況である。
- まだ時間を要するところだが、私たちの考えでは、来年には都市計画決定を進めていきたいと考えているので、私たちはこれよりも、もう少し前向きに走っている。5年後じゃなきゃ何もわからないというレベルではなく、都市マスターレベルで言えば、来年には計画決定を進めていくので、もうちょっと積極的な言葉を使っていた方がいいかなという気はする。
- 道路の都市計画決定の後、整備に入って、先行して土地利用をどうするかを決めることができればいいが、例えば立地ができるというのは、松糸道路が出来上がって、インターが開通しないと、土地利用は変えられないと思う。
決して松糸道路事業の進捗が遅いということではなく、道路が空いた後に、土地利用の区域検討がついていくイメージになると思うので、そのような記載にさせていただいた。もし、この部分はもっと積極的な書き方がよければ、修正をかけさせていただきたい。
- どの程度積極的にかけるかというのは、今お示しすることはできるのか。
- 現時点では、道路に対して積極的ではなく、その周りの工業用地に対する書き方になるかと思う。あと、マスタープラン自体が10年の見直しなので、必要に応じて、そのときに見直しをしてもいいという書き方をしている。松糸道路の進捗状況によっては、その手前で10年を待たずに、その部分だけ見直しをするということは考えられる。
- 了解した。
これは少し文言を揉んでいただくということでよいか。このままではなく、もう少し積極的な書き方ができるということでよいか。
- 今回のマスタープランの見直しにあたり、工業系の用途の位置づけをどのようにするかというのは非常に私どもの頭を悩ませたところである。
本来であれば、先ほど説明にあったようにマスタープランで工業用事業用地はここら辺だというゾーンが示せれば一番望ましいが、安曇野市の大きな松糸道路をはじめとした道路、特に交通に絡んでくるので、そういった交通網の関係が、ようやく動き出していく。

今回、松糸道路のルート帯が決まったことで、ルートあるいはアクセス道路がどのようになっていくか、さらにはこれを使って安曇野市内の交通課題として、東西の連絡道をどうするかということもある。

そういうのがある程度見えてくるのは、まだ先だろうという中で、今の時点では示す段階まで至らない。そのような中でどうするかということで頭を悩まして、まとめ上げたのが3-8、3-9のページである。

先ほど、ご指摘があった安曇野市に立地したい企業、工場の芽を摘んでしまっただけではないという思いは、こちらにも書き込んでいる。

それから、工業振興ビジョンは建設の部署ではなく商工の部署で作っているものを参考に載せさせていただいた。

今後、私たちとしても早期に示せるゾーンを出していけるものであれば、出していきたいと思っている。

ただ、それをやっていくには、道路の進捗状況、地権者さんをはじめ、皆さんとの交渉経過をふまえて、それがどのようになっていくかをある程度見ていかないとはいけなく、参考に載せた工業系の用途をどうするかは、行政の中で他の部署でも議論している。その様子を見て、意見交換しながらになるかと思う。

私どもは進捗なり、周りの状況を見ながらゾーニングの設定をやっていくのは当然ながら頭にあるが、今回はそのような状況の中で、苦労した後の表記として、今はこんなふうにもまとめ上げた。本来はゾーニングはやっていきたいという気持ちはある。

それから、松糸道路の進捗、様子を見ながら遅れのないように対応していきたいと考えている。

- ゾーニングは非常に慎重にしなければいけないということも当然のことである。失敗した配置をすれば、それはもう後を引いてしまうので、これは慎重にやらざるを得ない。更にこの用途を検討する都市計画サイドと工業振興ビジョンと一緒に足並みを揃えた形でやっていかないとはいえなくということもある。

そういう気持ちがある中でこの書き込みをしていただいたので、事務局の意を取ってこの都市計画審議会のところで松糸のより具体的な形、出入口の話があったが、それに関連する道路網も当然関係してくる。道路整備推進計画の進捗とも関連しているので、この辺りは事務局も重々分かっている。進捗もふまえた上でタイミングが合えば、より具体的な場所をお示ししていただくということで、いかがか。

なかなか書き込むのは難しいと思う。

はっきりしない状況の中で下手にゾーニングをやると、せっかくの安曇野の綺麗な地域が乱されてしまうので、こちら辺は事務局としては慎重にゾーニングをしていくということで、このぐらいの表記でよいかと思う。

- 今の話も関連するが、1-1 ページの計画期間の中で本計画は20年程度先を、となっている。都市計画の関係なので、あんまり変えるのは確かにまずいと思うので、20年というスパンはよろしいのではないかと思う。

ただ前回も申し上げたが、世界的にコロナの問題を含め、環境問題がこれから激変し、環境に対するいろんな法律、政策が変わってくる可能性が出てくるかと思う。そういう意味では、今後の社会情勢をふまえて、必要に応じて計画を見直すとなっているが、それはいつなのかという話が多分出てくる。その時その時で対応するのかということ。

それから環境審議会では基本計画を10年スパンでやっている。10年といっても半分の5年くらいを目途に中間で見直しをかけて、進めているというのが現状である。今までであれば都市計画みたいなものが10年、30年、50年先のスパンで見直しをしても構わないと思う。

4月1日から建築に対する省エネの説明が義務化されるようなことが起こっている。ただ国交省の担当官とヒアリングしたときも国交省自体は、当初から説明というよりは、法律で省エネをさせるということをしたかったのが本音であり、その辺のことはすぐにできないということで説明義務化になった。ただ実際はコ

ロナとか、菅さんの発言からすると、義務化というものが目の前に来ているのだから。かなりいろいろなものが変わってくる要素が多い時代に入ってしまったので、できればこの状況を見ながら必要に応じてというよりは、例えば中間の5年とか3年後とかで見直しをかけるほうがいい。

先ほどの土地ゾーニングの問題を含めて、状況が変わってくるのか、ある程度、期間で予想をして対応するような意味でも、この一番頭の文面に対して、もう少し具体的な数字を入れ込んではいかがか。

- 1-1 ページの計画期間のところの話なのか。

必要に応じて計画の見直しを行うと書いてある。区域区分の見直しもあるし、それに伴って都市基礎調査は5年、市の財力によっては6年、7年に延びる場合もあるが、最低そのぐらい見ていかないと3年だとローリングプラン的な形がして、着手もできないし、区域区分とか基礎調査の5年というのが最短になっている。この効果が出るかどうかもなかなか難しいところがある。

そういうこともふまえて考えれば、6-12 ページの推進体制のイメージに、都市計画基礎調査など、まちづくりに関連する調査や各種統計データ、市民の意向の把握分析を行って、さらに社会情勢の変化をふまえて、と書いてあるので、このぐらいにしておいてもいいのかなという感じがする。

- やはり今後の社会情勢がわからない中で、必要に応じて計画を見直す、もうこれが一番妥当ではないかと思う。
- 要するに1 ページに書いてあるこの文言で十分ではないか。
- それで全部含めているかと。
要するに、将来という言葉もあるかもしれないが、今後という言葉は良いと思う。将来というと期間を長く見てしまう人もいる。
- そうすると、3-9 ページのところも今後にしたほうがいいのか。
以上のことをふまえて、将来的には、と書いてあるところを、今後、産業団地、工業団地等事業用地として考えるゾーンを検討していくこととし、にした方がいいか。

事務局はいかがか。非常に難しいと思うが。

ご事情もよくわかる。都市計画はいろんな事柄が絡んでいるので、一概に用途や都市施設だけの話だけではなく、建築のことも関わってくるし、農業も当然関わってくるし、非常に難しいところで、事務局のお悩みはよくわかる。

以上のことをふまえて、今のご提案としては、将来的にはというところを今後にはしてはいかがか。

- 確かに社会情勢をふまえてということで5年、3年というご意見があり、これをやっていく中で、土地利用のゾーニングをどういうふうにしていくのか、というところが一番の課題になっている。これをずっと考えてきた。

一番大きな起点となるのは、松糸道路がどういう形で整備されていくのか、というところがある。先ほど委員さんのほうから5年ぐらいには、というような意見があり、頭の中では5年ぐらいで見直しも動いてくるという中で、土地利用について、どうしていくのかというのを具体的に少し動いていかないといけないタイミングになってくることをふまえて考えている。その辺のことも考えて、必要に応じてと加えているところである。

今委員さんからもご意見いただいた将来的という部分を、例えばこれを今後というような言い方にすれば、もう少し積極的な感じになるかと思うので、前向きに検討させていただきたい。

- ここは、事務局で検討していただきたい。
ここが一番のところになるかと思うが、いかがか。もし何かあれば19日までに事務局にお伝えしていただければと思うので、よろしくお願ひしたい。

それでは続いて、安曇野市道路整備推進計画〔改定版〕（案）について事務局からご説明よろしく願います。

[2] 安曇野市道路整備推進計画〔改定版〕（案）について

資料説明（事務局）

【説明に対する意見】

- 前は概要版で検討していただいたが、今回は改定版の案ということで、冊子でご説明をいただいた。前半は関連上位計画や関連計画がたくさんあるので、それについての記載と、本推進計画との対応の話である。

具体的なところは 5-1 の第 5 章からということになっているが、ただいまのご説明についてご意見あるいはご質問がある場合は、よろしく願いたい。

道路整備というのは時間がかかるので、簡単に方針を変えられるものでもない。大きな用途が生じた場合には、その路線も少し考えなければいけないが、基本的には今のところは従前と同じ、一部アクセス線、先ほど説明があったところが少し追記されている。

- 安曇野市の観光調査で毎年 1,000 人ぐらいを対象に約 7 年間、毎年集計調査をして、提言させていただいている。サイクルツーリズムがあるが、実際に学生を連れて、穂高地区周辺で調査をさせていただいた。ここに書かれていることは特に問題はないが、感想としては、よく事故に遭わなかったなというような状況である。道路の幅が狭くて、そこで車がビュンビュン飛ばしていて、非常に危険である。

サイクリング系でやっているところで、例えば尾道は初めからサイクリングロードを整備されて走っているが、安曇野市の場合は何もないところを走らなくてはいけないのがあり、かつ車でクラクションを鳴らされたりして、非常に危険なところだと痛感したし、本当に事故に遭わなくてよかったなと思う。

ここに書かれているので、多分そういうことをされると思うが、一番の問題は拡幅と広い道路に対して、自転車道という形で案内を表示されないと、今後のサイクリングとしては提案できないというのは痛切に感じたので、そこだけは願いたい。それ以外は問題ない。

それから観光調査をずっとやっていて、ちょっと余計かもしれないが、7 年間、毎年 1,000 人ぐらいやっても、圧倒的に首都圏からの熟年層がほとんどで、パターンが一緒である。ほとんど 60 歳以上のリピーターの方で、別に大王わさび農場に行くわけでもなく、ただ安曇野に滞在しながら田園があって、食事があって、お風呂に入ってという形のものを楽しむ。暮らすような形がずっと増えてきて、やっぱり田園風景というのが一番喜ばれるところだが、年々そういった景色とかが開発されていくのが残念だというのが圧倒的に多い問題であり、この 7 年間ほとんど同じ形である。

とりあえず、サイクリングをやるなら、できるだけ危険がないような形で対応していただきたい。

- 実態の紹介をいっていただいて、危険箇所の整備については、より具体的に安全を考えたものを作っていき、あるいは整備をしていくということか。
幅が広ければ自転車道が作れると思う。作る予定はあるのか。

→ 自転車の利用促進というところで前回もお話させていただいた。市内でもサイクリングコースを 3 コース作っているということで、こちらの方を積極的に PR して、自転車の活用を図っていこうというような動きをしている。

そういった整備の中で、危険箇所だとか、案内だとかの充実を図っていきたいということで行っている。

無論今後、道路整備していくにあたっては、自転車の通行帯と、歩行者と車道とかを明確に分けていくというのは、前提としてあるが、用地の関係とかもあり、どの辺までというところがあるので、今、市の自転車の活用については3コースを積極的に整備していこうという動きをしているところである。

- 広い道に関しては、できれば使っていただいて、全部はとても無理なので、余裕があるところに関しては、そういう提案をしていただいて、そこを走ってもらえればいいなと思う。
- よろしいか。その他に何かあるか。
こちら、何かお気づきの点があれば、2月19日までに事務局にご連絡いただきたいと思うので、よろしく願いしたい。

3 その他
次回日程について（事務局）

4 閉会

以上